

Ⅱ. 公開シンポジウム開催記録

Ⅱ-1 シンポジウムのプログラム

Ⅱ-2 シンポジウム開会の挨拶

Ⅱ-3 基調講演「グローバル創業の意義について」

増田行信 氏（三重県雇用経済部中小企業・サービス産業振興課長）

Ⅱ-4 本学学生によるビジネスプラン発表

Ⅱ-5 パネルディスカッション

「三重県を元気にするグローバル創業とは」

MIEスタートアップシンポジウム

三重を元気にする 若者・グローバル創業のスス メ

鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター 設立1周年記念



illustration: 乾愛実
(鈴鹿大学短期大学部 1年)

平成29年1月27日(金) 13:30~16:00(開場 13:00)

会場: 鈴鹿大学 国際文化ホール

参加無料(定員: 200名 ※先着順)

主催

鈴鹿大学・三重県

後援

SUZUKA 産学官交流会(鈴鹿商工会議所内)

~創業に興味のある学生・起業家のみなさま ふるってご参加ください~

Program

- 13:30 開会挨拶 鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター長 市野聖治
(鈴鹿大学学長)
- 13:35 基調講演「グローバル創業の意義について」
三重県雇用経済部 中小企業・サービス産業振興課 課長 増田 行信
- 14:05 鈴鹿大学学生によるビジネスプラン発表
- ①「地域支援ビジネス」
イノベーションマネジメント履修生 アップルウィンターチーム
- ②「D.system」
イノベーションマネジメント履修生 SADチーム
- ③「中古釣り具輸出ビジネス」
演習Ⅰ(高見ゼミ)履修生 ゴ ホアン ガン
- 14:35 休憩
- 14:45 パネルディスカッション「三重県を元気にするグローバル創業とは」
日本貿易振興機構(JETRO)三重貿易情報センター 所長 吉良 大嗣
百五銀行地域創生部 課長 滝川 充
UCCO株式会社 代表取締役社長 手塚 典子
鈴鹿大学国際人間科学部 専任講師 高見 啓一
- 15:55 閉会挨拶 鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター副センター長 渡
邊聡

(16:00 閉会予定)

起業や民間事業者のイノベーションが三重県経済の活性化につながるというコンセプトのもと、大学生によるビジネスプランの発表・講評、および起業支援に関わる専門家・行政関係者などによるパネルディスカッションを開催します。

テーマは「学生・若者によるチャレンジ」と「グローバル創業」です。起業家育成のあり方、留学生や地域との連携の可能性、グローバルビジネスに必要な視点など、国際ビジネスを専門とする本学にどのようなリソースを集めていくべきか、検討していきます。

【申込先・問い合わせ・アクセス】

(1)氏名 (2)住所 (3)電話番号
(4)FaxもしくはEmail を記入のうえ、
以下までお申し込みください。

申込期限:平成 29 年1月 25 日(水)

鈴鹿大学総務課

TEL (059)372-2121

FAX (059)372-2827

Email hojin@kyoeigakuen.net

シンポジウム開会の挨拶

市野 聖治

(学校法人享栄学園 鈴鹿大学・学長
鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センター長)



本日は、鈴鹿大学によろこお越しいただきました。鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センターの設立1周年を記念して、シンポジウムを開催いたしました。本日のシンポジウムが、みなさまにとりまして実りあるものとなることを願っています。

鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センターは、三重県高等教育機関魅力向上支援補助金を受けて、昨年度設立いたしました。三重県の高等学校卒業生で大学へ進学する者のうちで、三重県内の大学へ進学する学生は20%以下です。80%以上が県外の大学に行きます。県外の大学に進学すると、多くは県外に就職します。出生率の低下で若者が減り、加えて大学入学で県外へと流れることで、県内の若者が減ります。将来の三重県には、人がいなくなるといったことになってしまいます。このあたりを少しでも改善して、夢のある未来にしようと、三重県が補助金を組みました。いろんな情報発信をして、三重県の大学が楽しい、三重県の大学で学ぶことで幸せな将来像を描くことができるようにするため、鈴鹿大学では、ビジネス・イノベーション研究のプログラムを始めました。

鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センターでは、起業・創業に焦点をあてています。地域が抱えているいろいろな問題に対し、経済・観光・国際といった領域に力を入れている大学の特性を活かして、起業・創業の視点から解決策を探ろうと考えました。

本日のシンポジウムも、その一環です。こうした積み重ねの中で、地域になくってはならない大学になろうと努めています。

地域貢献とは、地域の人達が幸せになることのお役に立つことだと思っています。鈴鹿が、三重県が元気になり、みなさんが幸せな生活が送れるよう、鈴鹿大学では、大学としての人材育成に加え、雇用を生み出す仕組みを企業のみなさん地域のみなさんと一緒に考えることで、地域貢献の役割を果たしていきたいと考えています。

基調講演「グローバル創業の意義について」

増田行信 氏

(三重県雇用経済部中小企業・サービス産業振興課長)



「MIE スタートアップシンポジウム 三重を元気にする若者・グローバル創業のススメ」を鈴鹿大学様とご一緒に開催させていただきますことに、御礼申し上げます。大学のみなさまのご尽力により、本日このようにたくさんのみなさまにご参加いただき、感謝いたします。

県内企業の社長さんや企業支援を行っている方々と一緒に仕事をする機会が多いのですが、廃業されるところがたくさんあって困っているというお話をよく聞きます。地域になくってはならない企業や商店なのに、だんだんとなくなってしまっているのが実状です。廃業を止めるための打つ手がない中で、私達が力を入れているのは、起業、創業です。

三重県では、1年と少し経ちましたが、平成27年10月（改定版28年3月）に「希望が叶い、選ばれる三重」をテーマに、「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。その中で、若者や女性の仕事の創出を重要と考え、いろいろな取組を進めています。

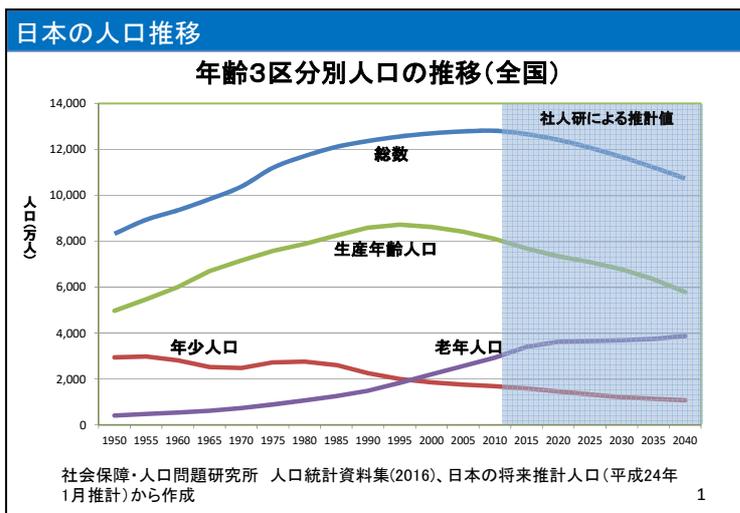
新たに事業を始める指標として、開業率というのを良く使います。事業者全体の中で事業を起こす人の割合のことですが、これをとにかく高めていこうと考えています。そ

のため、金融機関さんのお力を借りながら、創業していただく方の環境整備をしています。平成 28 年の 7 月にグローバル創業に関する「MIE グローバル・スタートアップ・サポートプログラム」を策定しました。特に若い方で創業しようという方を支援しようということで、進めています。

人口・経済指標からみる三重・日本・世界の経済状況

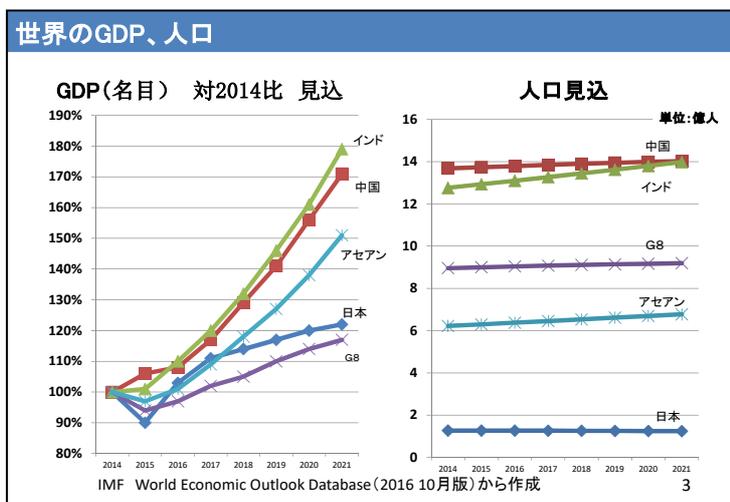
ビジネスを考える基礎知識として、人口の変化についてですが、日本は 2010 年をピークに減っています。ゆるいカーブのように見えますが、ここに大きな問題点があります。2010 年から 2020 年の 10 年間に、400 万人の人が日本からいなくなります。年間 40 万人です。鈴鹿市と津市の人口をあわせると 36 万人くらいですので、毎年鈴鹿市と津市の方がいなくなるといったイメージです。会場にいらっしやる方々が将来第一線で活躍される 2040 年頃を見ると、2020 年から 2040 年の 20 年間は、毎年 87 万人くらい減ることになります。先ほどの鈴鹿市と津市の方に加えて四日市市の方もいなくなるという数字です。

消費について、家庭の支出構造が変わってきています。今の人はほとんどスマートフォンをもっていますが、スマートフォンなど通信費が増えています。一方、洋服など日用品消費にかかる経費は減っています。こうした変化が出てきて、この 10 年間、日本では消費支出が減少しています。このような状況では漠然とモノを売ってはいは、売れ



なくなり、消費者に求められるモノをつくっていかないと、商売が成り立ちません。

世界全体で見ると、インド・中国・アセアンの消費は急激に増えています。そうしたところからの留学生の方も多いと思いますが、母国に帰られると日本とは状況が全く異なっていると感じられると思います。私は 11 月末にインドに行きましたが、行く度に人が増えているこ



とを感じます。ダイナミックに発展しています。

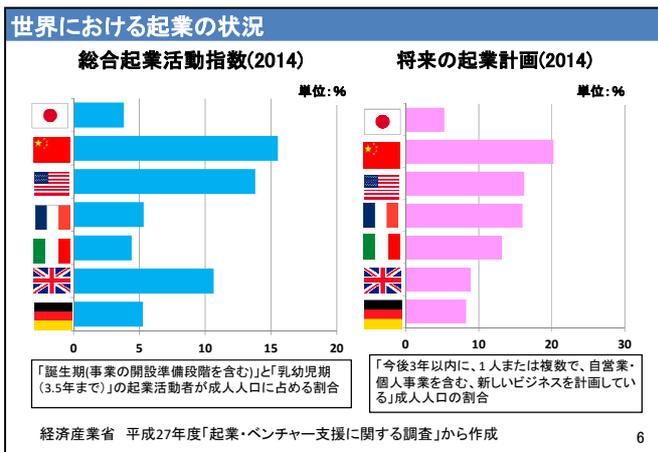
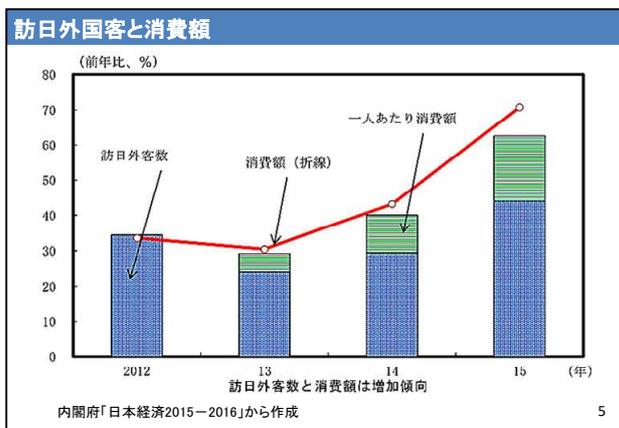
日本は、基本的には輸出で稼いでいる国です。原材料を輸入して、加工によって付加価値をつけて高付加価値のモノにして輸出してきました。この点は現在でも変わりませんが、中身が少しずつ変わってきています。付加価値の割合が増えてきています。より高い付加価値で日本は稼ぐようになりました。国内で仕事をする場合は、付加価値の高いモノにする。たとえば、今までの値段がついていなかったのが仕事をつくることで値段がついて、付加価値が上がります。これまでになかったモノをつくらないと、国内需要はもとより海外の需要に応えられません。

日本へのインバウンド観光の現状と起業

次に海外からの訪日旅行者(インバウンド)は、毎年急激に増加しています。今年(2015)は約2,400万人と予想されていますが、日本政府は、東京オリンピックが開催される2020年に約4,000万人という目標を掲げています。海外の方々に来ていただき、そこで消費していただき、国内の需要を喚起し、ビジネスにつなげようということです。

インバウンドの取組が日本各地で行われています。三重県でも、インバウンドに期待する声が高まっています。そのため、外国人向けのサービスや商品を開発しています。昨年行われました伊勢志摩サミットを契機として、多くの方々に三重県に来ていただく仕掛けが、あちこちで考えられています。

訪日外国人の一人当たりの消費額ですが、中国の方をはじめとして外国の方々はまとめ買いをして、たくさん消費をしてくださいます。泊まるだけでなく、いろいろなものを食べていただき、お土産を買っていただきます。日本人が国内旅行をする場合の消費よりも、ずっと多いです。つまり、インバウンドが増えることは、日本国内の消費支出が増えることにつながるわけです。ということは、日本経済が成長するためには、海外の方を呼び込んで、滞在していただいて需要を増やすことが重要だと思います。そうしたことを踏まえて、ビジネスプランを立てられる場合も多いと思います。



世界と日本の起業の現状

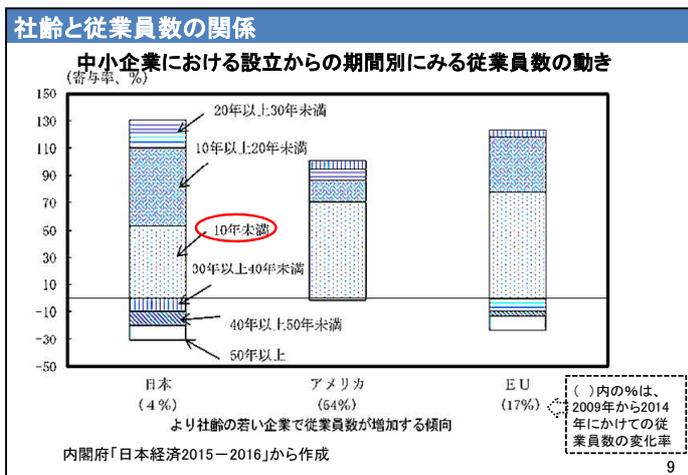
世界における起業の状況ですが、国別のデータがありますが、グラフを見ていただくと日本は少ない状況です。

開業する数をイメージしていただければと思いますが、日本は5%を切るくらいですが、中国・アメリカ・イギリスは15%前後と高いです。日本での開業は、他国と比べて半分以下となっています。

日本国内を見てもみますと、三重県は全国で9位と比較的高い開業率ですが、国際比較の中では、まだまだ低い状況です。都道府県別の開業率では、日本海側の雪の多いところが下位を占めています。一方、沖縄や関東平野・愛知・大阪の平野部では開業率が高い状況にあります。

開業率とそれぞれの国の経済成長率との関係を見てみると、開業率の低い国ほど経済成長率が低いという相関性があるようです。開業率の高い国は、特にブラジルや韓国ですが、経済成長率との相関関係があると思われます。

社齢が若い企業は、従業員を雇い入れる割合が高いという数字も出ています。創業して何年かということが従業員の雇用にどのように貢献しているかですが、日本全体で従業員を4%増加させている中で、創業10年未満の企業が新規雇用の50%を占めています。



10-30年が残りの50%です。30-50年以上のいわゆる老舗会社と呼ばれるところは従業員を減らしています。他国においても同様の傾向があります。起業が増えれば増えるほど、その地域の雇用が増えることとなります。開業率と成長率とが関係していて、若い企業ほど新たに従業員を雇い入れる割合が高いと言えます。

日本の人口が減少し、国内需要が伸びない中で、地域課題を解決していくときの視点についてですが、単に地域の需要だけを見るだけではなく、全体としてのマーケットを見てビジネスを展開していただくのがよいのではないかと思います。

グローバルに関してですが、輸出だけでなく、インバウンドビジネスも考えていただきたいと思います。海外の方に向けたサービス、又は商品づくりを考えていただいて、グローバルの視点をもって提供していくことを進めていただければと思います。新たな雇用創出や地域経済を支えることにもなりますので、一つの要素として念頭においてい

ただければと思います。

三重県における「グローバル創業」

グローバル創業という言葉は余り使われてこなかったのですが、グローバル創業に対するイメージが湧きにくいと思います。実際に三重県ではどうの方がグローバル創業をされてきたかですが、明治時代に真珠養殖の技術を独自に開発されて、いち早くロンドンやパリ、ニューヨークに店を出し、世界中の女性を真珠で飾りたいという理念で取り組んだミキモトブランドの御木本幸吉がいます。この方は、元々うどん屋さんをやっていたそうですが、地域の経済状況が一向に良くなならない中で、御木本は真珠のすばらしさを知っていました。真珠養殖ができていなかったのを、自分達の方で真珠養殖の技術を確立して、それを国内だけでなく海外で売るということに取り組まれました。元祖グローバルベンチャーと言えるでしょう。

1980年代に、エーペックス・インターナショナルという会社が創業されました。伊勢の三重県営サンアリーナの近くある会社で、上島憲さんという方が創業者です。上島さんは、現在伊勢商工会議所の会頭でいらっしゃいます。日本の電気製品を世界で売りたいとの思いで開業されました。電気製品などを海外で売るには、その国の認証を受けなければなりません。

その認証のためのサービスを行う企業です。少しずつ会社名が変わっていった、現在は株式会社 UL Japan となっています。アメリカで販売をする日本のあらゆるメーカーさんが、伊勢に来て認証を受けます。

もう一つは、ジャパンマテリアルという会社です。菰野町にありまして、1997年の創業ですが、創業間もない頃から台湾やシンガポールに進出しています。最初から、海外市場を念頭に置いたビジネスを展開されています。半導体をつくる際のガスの供給や、そのための装置などの提供を行っている会社です。急成長をいたしまして、三重県内に本社を置く上場企業の中で、時価総額が百五銀行さんに次ぐ第2位となっています。

現在ご活躍の創業者として、本日のパネリストのお一人である UCCO 株式会社の手塚典子さんや、三重大学発ベンチャーとして創業された株式会社医用工学研究所の北岡義国さんとか、三重県のお茶を世界各国へ売りたいということで創業された「みて株式会社」の森口英則さんなどがいらっしゃいます。

真珠を海外で売りたいということで創業された日本を代表するグローバルベンチャー

三重県におけるグローバル創業

元祖グローバルベンチャー
創業者 御木本幸吉(鳥羽市)
(株)UL Japan(伊勢市)
創業者 上島 憲

1980年 エーペックス・インターナショナル (製品安全試験認証機関)を創業
「日本製品を世界へ」
2003年 米国UL社と提携

1987年 ジャパンマテリアル創業者 田中好男
1997年 ジャパンマテリアル創業者 田中好男
1999年 台湾進出
2001年 シンガポール進出
2011年 東証二部、2013年 東証一部上場
* 県内上場企業 時価総額第2位

1993年 世界で初めて真珠養殖に成功
1899年(明治32年)創業
「御木本真珠店」創業
「世界中の女性を真珠で飾りたい」
ロンドン、パリ、ニューヨーク進出

1980(昭和)~

(株)医用工学研究所
創業者 北岡義国(津市)

2004年 三重大学発ベンチャーとして創業
医療用データウェアハウスシステム
中国など海外展開

UCCO (桑名市)
創業者 手塚典子

2010年 リターン創業
スポーツバイクやバッグデザイン
国内向けに加え、欧米市場に展開

みて株式会社(津市) 創業者 森口英則

2014年 「伊勢茶を世界各国へ」創業
シンガポール、スペイン、オランダ、
フランス、インド等へ輸出

このほか、多くのグローバル創業

1890(明治)~

2010(平成)~

11

一である御木本幸吉をはじめとして、三重県にはたくさんの先達がいらっしゃいます。

グローバルを展開する方々のサポートをしっかりとやりたいということで、三重県では、世界中の国々とのネットワークを強化しています。台湾、香港、フランス、ドイツ、アメリカなどの国や州などと産業連携の覚書や協定を結んでいます。中国の上海、タイのバンコクに三重県海外ビジネスサポートデスクという形で拠点を置いて、現地でビジネスの相談に乗っています。人的には、JETRO さんのクアラルンプール支店に三重県の職員を駐在させ、JETRO の仕事とともに、三重県としてのサポートを行っています。ヨーロッパでは、JETRO のロンドンに一人駐在がいます。台湾の高雄にも三重県の職員を置いておりまして、あわせて提携を結んでいます。限られてところではありますが海外に職員を置いておりますので、お声をかけていただければしっかりとサポートをさせていただきますと思います。

